

ネパール農村部における地域図書館の現状と課題：  
ジョムソン村のプータン・コミュニティ・ライブラリーを  
対象として

The Present Conditions and Problem of the Regional Library in  
the Nepalese Rural Area:  
In Case of Puthang Community Library in Jomsom Village

学籍番号：201321655

氏名：森川 万里

Banri MORIKAWA

経済的な発展が遅れているネパールにおいて、基礎的なリテラシ教育の普及は重要な課題である。しかし、ヒンドゥ教に基づくカースト制度により低カースト層が学校教育から疎外されているという問題が存在する。また、カースト意識は農村地域においてより顕著である。このような状況において、公共図書館には学校外教育の場としての機能が期待される。本研究ではネパール及び、ネパール西部山岳地域のジョムソン村に READ によって設置された地域図書館であるプータン・コミュニティ・ライブラリーに対する文献調査、訪問調査及びインタビュー調査から、ネパール農村地域における公共図書館の実態を明らかにし、その課題について考察を加えることを目的とする。

調査の結果から、ネパール語の能力及び学校教育経験が、プータン・コミュニティ・ライブラリーの利用の前提条件として認識されていることが判明した。従って、学校教育から疎外された低カースト層は、図書館からも疎外されている可能性が高い。またネパールの諸民族／カーストの約半数はネパール語以外の言語を母語とする点から、図書館利用における言語的な障壁も存在するといえる。

ネパールのカースト意識の緩和・解消を急激に進めることは不可能である。現状から乖離した“カースト制度の影響を受けない図書館”の展開は、図書館におけるカースト制度の影響と共に、図書館から疎外された人々をも不可視化する危険性がある。これらの問題を解決するには、将来的なカースト意識の緩和・解消を前提にした上で、カーストごとに利用しやすい図書館を設置するなど、カースト制度の影響下にある現在のネパール社会を考慮した図書館運営を行う必要があると考える。

本研究における調査は限定的なものであり、その結果をもってネパールにおける図書館の状況や課題を断言することはできない。今後もネパールの図書館をより広範囲に渡って調査することで、図書館設置支援や図書館政策のあり方に対する検討を進める必要がある。

研究指導教員：吉田 右子

副研究指導教員：平久江 祐司